荒尾市民病院
市民を愛する　市民に愛される　病院へ
地域医療連携だより
小岱
第46号（2022年9月発行）
地域医療支援病院　地域がん診療連携拠点病院　臨床研修病院（基幹型・協力型）
脳卒中急性期拠点医療機関/回復期医療機関
心筋梗塞等の心血管疾患急性期拠点病院/回復期医療機関　災害拠点病院
日本医療機能評価機構認定病院　第2種感染症指定医療機関　地域周産期中核病院

ごあいさつ　　院長　勝守　高士

猛暑も漸くピークを過ぎ朝晩の涼しさに秋の気配を感じる季節となりましたが皆様いかがお過ごしでしょうか。

全国的な感染者数の増加で医療逼迫を生じさせているオミクロン株による新型コロナ感染第7波ですが、漸くピークを越えたように思われます。しかし、小児を中心に若年者のワクチン未接種者が多いため感染はしばらく継続すると予想されます。感染予防策を行っても家庭内感染はなかなか防ぐことは出来ませんので、ほとんどの医療機関で職員感染による医療提供能力の低下が今しばらく続きそうです。コロナ以外の重症者の救命率が下がることはなんとしてでも避けなければなりません。したがって、地域全体で医療機能を温存させる努力が必要です。病院などの医療関係施設では今まで行ってきた院内感染予防策（飲食時以外のマスク着用・食事場所などの充分な換気・マスクやドアノブなどに触れた後の手指消毒）の徹底と感染患者発生時の早急なゾーニングを行うことで院内感染の最小化を図ることが重要と思われます。

ところで、11月13日に荒尾市総合防災訓練が予定されています。昨年は荒尾市における最大想定震度6弱の雲仙南東部断層群によるM7.1の大地震を想定し防災訓練を行いましたが、本年度は近年増加している線状降水帯による洪水を想定した訓練が予定されています。一昨年関川が氾濫しその下流の諏訪川流域では死者も出る惨事になりました。その他有明地域には1級河川の菊池川がありその支流を含めて氾濫に対する対策が重要と思われます。当院は有明地域の災害拠点病院としてくまもと県北病院と連携した訓練を計画しています。警察・消防・医師会・歯科医師会・薬剤師会・保健所・荒尾市役所関係各課などの皆様と連携し実りある訓練にしたいと考えています。よろしくお願い致します。

さて、新病院（有明医療センター）完成までいよいよ1年となりました。免震基礎の上に地下1階・地上1階のフロアが出来、現在2階フロアの工事が進んでいます。来年2月初めには躯体工事が終了し、その後外装・内装工事が進み、1年後には完成の予定です。工事の動画を24時間ホームページで閲覧できるようにしておりますので是非一度ご覧下さい。

荒尾市民病院は荒尾市唯一の急性期病院として新型コロナの院内感染を予防しながら病診連携を緊密に行い効率のいい診療を行うことで地域住民の健康の維持・増進に努めていく所存です。今後ともよろしくお願い致します。

緩和ケア認定看護師の紹介

緩和ケア認定看護師の役割

緩和ケア認定看護師　松山　美保

緩和ケアとは重い病気を抱える患者さんとご家族の身体や心のつらさをやわらげ、「その人らしく」より豊かな人生を送ることができるように支えていくケアです。

緩和ケア認定看護師の役割は、患者さんやご家族に対して、トータルペインの視点でアセスメントを行い、「その人に適したケア」を提供することです。そして以下の項目は、認定看護師として、専門性が求められている項目でもあり、目標でもあります。

1.患者を全人的に理解し、QOL を維持・向上するために、専門性の高い看護の実践。
2.コミュニケーションスキルを用いて緩和ケアを受ける患者・家族の価値観を理解し、患者・家族の価値観を尊重したケアの実践。
3.患者と家族の喪失・悲嘆に伴う適切な支援を行う。
4.緩和ケアを受ける患者・家族の権利を擁護し、自己決定を尊重した看護の実践。
5.より質の高い医療を推進するため、多職種と共働し、チーム医療の実践に向けてコーディネイト役を担う。
6.緩和ケアを受ける患者・家族への看護実践を通して、役割モデルを示し、看護職者への指導・相談を行う。

当院の緩和ケア認定看護師2名は、緩和ケアチームおよび病棟に所属し、外来患者には「生活のしやすさに関する質問票」を、入院患者には「STASスクリーニング」を使用し、「早期からの緩和ケアの提供」に取り組んでいます。さらに、緩和ケア普及のため、院内職員対象に緩和ケア勉強会や、院外の医療従事者に対する認定看護師講座を毎年開催しています。

また、7年前よりアドバンス・ケア・プランニング（ACP）の周知・普及活動をがん化学療法看護認定看護師と共に行っています。アドバンス・ケア・プランニング（ACP）とは、「今後の治療・療養について患者・家族と医療従事者が患者自らの意向に基づき予め話し合うプロセス」のことです。それは患者さん、ご家族の現在の気がかりや不安、患者さんの価値観、目標、現在の病状や今後の見通し、治療や療養に関する選択肢などを含みます。毎年開催している医療・介護従事者、行政職員を対象としたワークショップ（事例検討会）や一般の方を対象とした「人生会議（もしバナゲーム）」に参加することで、ひとり一人の価値観を尊重することの大切さを感じてもらえればと思っています。

「住み慣れた場所で、その人らしく生きる」ことを支えるためには、地域における緩和ケア連携は必須です。今後も緩和ケア認定看護師として、基本的活動は勿論、さらに有明地域の緩和ケア連携の調整とアドバンス・ケア・プランニング（ACP）の普及に務めていきます。

大腸CT検査を開始しました

放射線技術科

2022年4月より、大腸CT検査を開始しました。
大腸CT検査とは内視鏡の代わりにチューブを10cmほど肛門から挿入し、炭酸ガスで大腸を拡張させてCT撮影を行うという検査です。
撮影した画像（図1）を元に仮想内視鏡画像（図2）や注腸類似像（図3）を作成し、大腸がんや大腸ポリープ、大腸憩室などの様々な大腸疾患を発見します。
また、大腸の検査と同時に腹腔内臓器の評価も可能です。当院では人体への影響が少ない等張法で前処置を行っています。腸管洗浄液は午前に来院し飲用してもらい、午後から検査になります。

大腸CT検査の特徴は以下のようになります。

（長所）
・検査時間が短く（20分程度）、苦痛が少ない
・検査前の下剤の飲用量が大腸内視鏡検査の半分以下（800ml程度）
・大腸の全体像や病変位置の特定が可能
・6mm以上のポリープにおける充分な検出能がある
・大腸内視鏡の挿入が困難な方でも検査が容易
・大腸穿孔や出血などの偶発症が0.014%と極めて少なく、比較的安全な検査である
・腸管外の腹腔内臓器も同時にチェックできる

（短所）
・組織の採取が出来ないので、異常が指摘された場合は大腸内視鏡検査を受ける必要がある
・病変の色や硬さの情報は得られない。
・平らな表面型大腸病変を見つける能力は内視鏡検査に比べると劣る
・少量の医療被ばくがある（当院では放射線被ばくを極力減らした低線量撮影を行っています）

図1

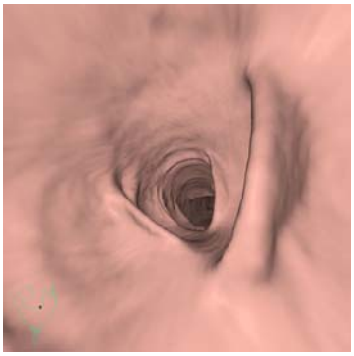

図2

図3

Infomation

くまもとメディカルネットワーク（通称：KMN）を活用しませんか？

KMNには、『文書送受信機能』という便利な機能があります。『文書送受信機能』では、診療情報提供書・検査データ・画像等を送受信ができます。Emailでも情報の送受信はできますが、セキュリティの観点から個人情報のやり取りは危険だと言われています。その点、KMNでは、安全かつ迅速に情報のやり取りができ、地域医療連携に非常に有効なシステムです。是非KMNの導入や活用をご検討下さい。KMNについて質問等がございましたら、相談支援センターまでお問い合わせ下さい。

《病院理念》

荒尾市民病院は、地域住民の健康の維持・増進に努め、患者中心の安全で質の高い医療の提供を目指します。

《基本方針》

1 地域の信頼に応える基幹病院として最善の医療を提供します。

2 地域連携を進め、地域完結型医療を目指します。

3 患者の人権を尊重し、あたたかい心を持った医療人を育成します。

4 効率的な経営管理を基本とし、健全な経営を目指します。

《患者さんの権利と責務》

1 あなたは、個人としてその人格が尊重される権利があります。

2 あなたは、あなたの病気について、良質な医療を平等に受ける権利があります。

3 あなたは、医療の内容について十分な説明を受け、十分な納得と同意の上で適切な医療を選択し、決定することができる権利があります。

4 あなたは、個人情報とプライバシーが守られる権利があります。

5 あなたは、ご自身のカルテなどの診療記録の開示を求め、その内容や説明を受ける権利があります。

6 良質な医療を実現するため、医師等に患者さんご自身の健康に対する情報を正確に伝える責務があります。

7 病院の規則に従い他者への迷惑にならないように努める責務があります。

8 臨床研修医、看護学生等が指導者の監督のもと研修や実習を行なっていることへの協力をお願いいたします。

荒尾市民病院　地域医療連携だより「小岱」　第46号　2022年９月発行
発　行：荒尾市民病院　相談支援センター　地域医療連携室
連絡先：〒864-0041　熊本県荒尾市荒尾2600
TEL：0968-63-1115（内線536・537）　FAX：0968-62-4543
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　bsn@hospital.arao.kumamoto.jp

荒尾市民病院
- Arao Municipal Hospital -